

やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	4 / 1958 / 58-59
タイトル	東北大会に出席して
著者名	吉田寿子

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

東北大会に出席して

吉田寿子

先はい初め、同好会々員の見送りを受けて、青森駅を出発したのが8月8日。小野先生引率で、これより新地の福島までの汽車の旅です。発表の内容は

- 動物-----1. ホタルの飛び方と天候との関係
2. カエルの食物摂取と天候との関係
3. 青森市海岸の植物群落

植物群落はどうやら原稿とチマートも揃った様ですが、「カエルの食物摂取と天候との関係」を発表する千田さん。しきりに資料とにらめっこしています。最後にホタルの飛び方と天候との関係を発表する三上さん。「チマートの完成は会場へ行ってから、原稿は頭中に有り」と部長さんだ

だけあって、落ちついたものです。

途中朝もやにかすんだ松高を望みながら、福島へ着いたのが、翌朝の早曉境です。車中の疲れを忘れたように、皆張りきってバスで福島大学へ向かいました。道路が狭いのに電車が通っているのには驚いた。バスから降りて、五分程度歩きますと福島大学の校内に着きます。門前には「日本動植物学会東北支部若少年発表会」と書いた、いかめしい看板が立ててありました。

会場にはまだ、3校しか来て居らなかつたので、学生ホールと称する所へ行つて、早速于マートを書き始めました。やがて会場の整理も整つたらしく、進行係の先生の挨拶がすむと、植物部門の発表のトップは、本校の植物群落です。自分の合図があると色々に説明が終ります。但々の発表が終るごとに、東北大学の先生が御批評して下さいましたが、植物群落に関しては、岩田先生が三年間も継続して行ったとのことで、誠に興味深い研究だと思ひました。この研究をいつと続けて行くには、群落を更に季節的に見てゆくと、各植物の繁榮季節によつて分布の状態も解りより良いものとなるでしょう。これに加えて動物的な影響も調べたら良いでしょう、との御高評がありました。私達が気づかなかつた点をご指摘して戴いたことは、これからの植物群落に大いにプラスになったと思ひます。

昼食時には、参加者全員の記念撮影等、和やかなひとコマも有りました。午後は動物会場へ足を向けてみましたが、暑くて発表する人も聞く人も容易ではありません。(扇風機でもあれば良いんだが?)勝手なことを考えながら発表に目を傾けてみますと、いよいよ三土さんの発表です。

講評は、着想はいいが、期間が短かすぎ、従つて資料不足だ、木タルとケンシポタル等、集田性のあるものを俵つて長期にわたつてやる様に、とのことでした。続いて千田さんの発表です。

私は後にいたせいかはつきり聞きとれません。(少し遠慮すぎたのかも知れません。)

これで我部の発表は無事終了です。中には小学生や中学生の発表も有りましたし、私には意味の解らないような高度な発表もたくさんありましたが、私にはほんとうに感銘深い発表会でした。

大きな疲労を戴いて、皆の足跡も軽く福島へ残る先生に見送られ、車中の人となりました。途中仙台へ下車、三土さんの御案内で、夜の市内を三時間ばかりぶらぶらしました。

おなかの空いている時のソバもおいしく忘れられない味の一つでしょう?

ネオンに飾られた仙台とも別れて、再び帰路につきました。夢の国をさまよつたり、去りゆく野山に目を走らせながら、うとうとしていきますと、とうとう下車時刻です。

これからはこの良き体験を生かし、生物部の良き一員として前進して行きたいと思ひます。

(筆者は一年)

正 誤 表

原本に「正誤表」が付属している場合、該当部分を以下に転記しています。「行」は、原則としてタイトル行なども含む上からの行数です。「u」が付く場合は下からの行数です。）

頁	行	誤	正
59	12	御高評	御講評